

## 質的データの分析について

質的分析の核心は、多様の事象の中から意味ある違いと類似のパターンを発見し、その本質的な特徴を同定すること。収集されたデータから、あることに焦点付けたコーディングを行い、中心テーマやカテゴリーを同定、それらから概念を生み出し、その関係を理論的に説明できる仮説を構成する。

(質的データを用いる研究では先行するグラウンデッドセオリーから演繹的に導かれる仮説を実証するものが多いが、質的データを用いる研究では仮説を生み出すものが多い。)

その方法として...

### A) データ対話型理論 (グラウンデッドセオリー) (Glaser&Strauss)

おのおののカテゴリーに適応可能な出来事を比較する段階

複数のカテゴリーとそれらの諸特性を統合する段階

理論の及ぶ範囲を限定付ける段階

理論を書く段階

### B) KJ法 (川喜多)

カード化

グループを作る

見出しをつける

グループ間の関連を考える

### C) 分析的帰納法 (Katz)

説明されるべき現象について大まかな定義づけをする

データやほかの研究や自分の洞察・直感から、その現象を説明する仮説を作る。

一つの事例を詳しく調べて、仮説と事例が適合するかどうか調べる。

仮説が事例をうまく説明しない場合には仮説を立て直すか、現象を捉えなおす。

仮説を支持しない反証事例を積極的に探し出す。

反証事例に出会ったときには仮説を修正するか、現象を再定義する。

広範な事例への適用を調べることによって、仮説の適切さが確認されるまで、繰り返す。

などがある。

## 論文を書く上での注意

質的データは、データ収集の際にも、データの分析の際にも主観が入り込みやすいため、論文を書くときに以下のことに気を遣わなければならない。

対象・現場とのかかわりを通じて見えてくるリアリティを「生き生きした形で記述」し、データの「事象への密着性・忠実性」を高める。

観察された現象をありのままに記述するだけでなく、その事象が対象者の住む生活世界にとって持つ意味を理解するために、行為・出来事のおかれた文脈や全体状況を含めた厚い記述を行うこと。

研究者自身にも十分には自覚されていない問題関心などの「暗黙の理論」の働きを内省し、記述する「メタ観察」を行うこと。

そのため、「問題・目的、方法、結果・考察、結論」という形式では特に方法の部分で「依拠する方法論」、「研究協力者」、「データ収集の手続き」、「研究者についての情報」、「分析手続き」、「倫理的配慮」についての詳細な記述が求められる。

(今回の論文では、「どのような面接を行ったのか(方法論)」、「どこでどのように面接を行ったのか(手続き)」、「どのような分析を行ったのか(分析手続き)」の記述が特に曖昧だと思われる。)

## エスノメソドロジーについて

### エスノメソドロジー

社会学の一派。(中略)われわれが日々当たり前のこととして行っている社会的行為の中で、ものごとを了解しているあり方を、われわれ固有の方法(エスノメソッド)と呼び、その仕組みを明らかにしようとする分野。現在では特に会話分析が中心的に用いられる。

(認知科学辞典より)

エスノメソドロジーは特定分野の人間が暗黙的に使っている方法論を、参与観察、フィールドワーク、アクションリサーチ等で研究するもの。従って、その特定分野の文脈の中でのみ意味を持つものとされる。

(この暗黙的に使っている方法論というのが、暗黙知なのではないか?)

## 参考文献

C,ウィリッグ著 上淵寿 大家まゆみ 小松孝至共訳 2003 「心理学のための質的研究法入門：創造的な探求に向けて」 培風館

海保博之 加藤隆編著 都築誉史(他)著 1999 「認知研究の技法」 福村出版

高野陽太郎 岡隆編 2004 「心理学研究法：心を見つめる科学のまなざし」 有斐閣

南風原朝和 市川伸一 下山晴彦編 2001 「心理学研究法入門：調査・実験から実践まで」 東京大学出版会

マイケル・ポラニー著 佐藤敬三訳 1980 「暗黙知の次元：言語から非言語へ」 紀伊国屋書店

武藤隆(他) 2004 「質的心理学：創造的に活用するコツ」 新曜社

山崎敬一編 2004 「実践エスノメソドロジー入門」 有斐閣